



春に

たにかわしゅんたろう
谷川俊太郎

この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
声にならないさけびとなってこみあげる
この気もちはなんだろう
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
よろこびだ しかしかなしみでもある
いらだちだ しかもやすらぎがある
あこがれだ そしていかりがかくれている
心のダムにせきとめられ
よどみ渦まきせめぎあい
いまあふれようとす

目標

- 「ぼく」の「気もち」がどのような言葉で描かれているかを理解し、語感を磨く。
- 詩に描かれた物事の構成や展開に注意し、作品を批評する。

10

5

▼ 渦
うず

渦巻き

この気もちはなんだろう

あの空のあの青に手をひたしたい

まだ会ったことのないすべての人と

会ってみたい話してみたい

あしたとあさってが一度にくるといい

ぼくはもどかしい

地平線のかなたへと歩きつづけたい

そのくせこの草の上でじっとしていたい

大声でだれかを呼びたい

そのくせひとり黙っていたい

この気もちはなんだろう

千 みちしるべ

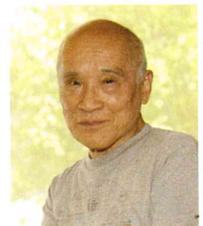
① 題名『春に』に続く言葉があるとすれば、それは何かを考えよう。

② 「この気もちはなんだろう」という表現が繰り返され

ていることの効果について話し合おう。
③ 「ぼく」の「気もち」はどのように変化しているか、構成に着目して説明しよう。

10

5



谷川 俊太郎
〔一九三一—〕

東京都に生まれた。

詩人。

詩集に『みみをすます』

『ことばあそびうた』は

だか、ほんやく翻訳に『マザー・

グースのうた』『ピー

ナッツ』などがある。

《出典》『谷川俊太郎少年

詩集 とぎん』によった。